

平成26年8月6日 平和集会にて

みなさん、おはようございます。

今日は広島に原子爆弾が投下され69年目にあたります。

毎年この時期になると、蝉が鳴き、広島市の花である「キョウチクトウ」が赤く咲き、そして静かに祈りを捧げている光景を見ることが多くあります。

また広島のあちらこちらで語り部の方が当時の広島の様子を語ってくれる光景も見られます。

私も先日、「語り部」の方から当時の様子を聞く機会がありました。

その方は、当時14歳、今の中学2年生ぐらいです。実家が廿日市ということで、広島西広島駅から観音の工場に学徒動員をかけられ、工場に着いたときに、空襲警報が鳴り、その後、原爆に逢われたそうです。一瞬、周りが白く光りドーンという音とともに吹き飛ばされ気を失ったそうです。気がつくと周りは火の海。必死になって天満川に逃げたそうです。天満川につくと飛び降りました。

そのとき、板に刺さっているクギが足に刺さり、そのクギを自分で抜き逃げたそうです。必死になって対岸まで泳ぎ、あとは歩いて逃げたそうです。しかし、体中は痛く足にもケガをしているので数歩歩いては休む。何とか西広島駅まで逃げた時には夕方になっていたそうです。

その語り部さんは実家が廿日市。途中で車に乗せてもらいながら何とか家までたどり着きました。

家に帰ると顔も水ぶくれで変わりはてていたのですが、親はすぐに自分の子であるとわかり、母親が懸命に治療してくれたおかげで今があると言われていました。

今、このような語り部の方も平均年齢が80歳を越えようとしています。

その方も言っていました。「私たちには時間がない」

広島に住んでいる私たちは、これから何をしなければならないか、今日はそんなことを考えてみる大事な日だと思います。

先ほど慰霊祭のVTRを観ていた時、代表の生徒はこう言いました「願いから行動へ」

これも一つの選択です。また君たちのおじいさんやおばあさんから当時のことを聞くことも大事な選択だと思います。

69年前、この広島で何が起きたのか。自分の大事な人や家族がどうなったのか。こういうことを学び、これから私たちはどうしていくのか。そういうことを考える一日であればと思います。